

国分寺市では、障害のある人の相談をたらいまわしにしない。一度関わったらその手は離さず、みんなで少しずつ、チームで支えることを「チーム国分寺」と呼んでいます。

角田(つのだ)さんとの出会いは、2019年2月に、相談支援専門員と障害児の支援者を対象に支援のネットワークをつくる研修の講師としてお招きしたところからはじまります。

テーマに「発達に気がかりのある子どもと家族の実際」と掲げ、障害のある子どもの親に焦点を当てていただきました。つながるワーク(チーム・ビルディング)を通して、顔あわせのところから、支援者間のネットワークをつくっていただきました。これをきっかけに、障害児をテーマとした研修は、3年連続でお願いし、相談支援専門員を対象にした「研修」、個別ケースに関わる支援者を集めた「個別コンサルテーション」、自分たちの「基幹のコンサルテーション」へと角田さんとのつながりは広がっていきました。

振り返ってみますと、この6年で44回も国分寺市にお越しいただき、(1回2時間)88時間、延べ人数495名の支援者と関わっていただきました。参加者の中には篁一誠(たかむら・いっせい)先生のことを知らない人もいます。私自身も篁先生の講義を直接拝聴したのは1回限りです。

しかし、角田さんに受け継がれた篁先生の志は、確実に角田さんを通して多くの人に伝えられています。まるで水かさが増すように、ひたひたと静かに、確実に、私たちの中に蓄えられ、そして、今日も私たちは、自身の身をもってたくさんの人に関わっています。本当にいつも、ありがとうございます。

国分寺市障害者基幹相談支援センター センター長 **銀川 紀子**

<角田みずぶさんとのかわり in 国分寺>

	ネットワーク研修	相談支援専門員研修	個別コンサルテーション	基幹職員コンサルテーション
2018年度	1回 26名	—	—	—
2019年度	1回 34名	—	4回 63名	—
2020年度	1回 28名	—	7回 57名	2回 10名
2021年度	—	1回 16名	4回 33名	2回 10名
2022年度	—	1回 18名	5回 41名	3回 15名
2023年度	—	1回 14名	8回 61名	3回 17名
計	88名	48名	255名	52名

一般社団法人 篁 Takamura 協会 相談支援係長 **つのだ 角田みずぶ**  
(公認臨床心理師)



このコンサルテーションで心がけていることは、出されたケースに関わる全ての人に、それぞれ、お力があり、生き抜いておられる方々である、ということをお忘れしないことです。そして、最初にそのことをお伝えし、この時間を通して、この部屋を出るときにどうなっていたいかをお尋ねすると、たいてい、それが実現しています。

困難事例と名付けられている状態を、どんな組み合わせでそのように名付けられるようになったのか、関係者一人ひとりのまなざしや思い、痛み、無力感など、丁寧に暮らしの言葉をつかって、ひもとき、集った方々の真ん中にあるテーブル(ホワイトボード)に現していくこと。ホワイトボードの上には、皆さんのなかからでてきたもので彩られていきます。

そう、できるだけ、肯定的で温度があって有機的で彩のある表現で比喻して現すこと。私のすることは、皆さんのしていることを、そのように映し出す二次創作のようなものです。私たち家族を伴走くださった、篁一誠(たかむら・いっせい)氏のまなざしによって、自閉症の方々の生き方が、世間にあるものと全く異なるイキイキとしたものに塗り替わったように、私の中に、いきづく、このものさしを、みなさまに体験して頂けたことを、共有できたことを、嬉しく思います。

「一緒に」時間を過ごし、共通の体験を通じて、今起こっていることを通訳していくことについて、機会を与えて頂き、許容して下さい、チームの一員として迎えて頂いたことに、あらためて感謝いたします。チーム国分寺!ステキです。これからもよろしく願いいたします。